

建材・流通加工

神商鉄鋼販売

神鋼商事の建設鋼材事業を移管

製品ラインアップが多様化

神商鉄鋼販売(伊藤勝美社長)は親会社の神鋼商事から建設鋼材事業を移管され、7月1日から新たなスタートを切った。同社はこれまでグループ企業である神鋼ボルトの主力ボルトのほか、土木分野二・三次製品を取り扱ってきたが、今回の機能集約で鋼板や線材なども扱うこととなり製品のラインアップが多様化、

「大きなキーワード」として、「グループ企業として今回の再編により、建設分野に注力していく体制とした」と経緯を語る。

ただ、建設分野における鋼材需要は「マクロ的にはピークのバブル期と比較して約3分の1になり、競争する建材専業商社も統合などで数が減った」として厳

しい現状を見据える。

ただ、一方で「建設土木ともに、将来的には大きな増加が期待できる分野ではないが、多くの企業や人々が関わっており、守つていかなければならない重要な産業。また、国内で確実に一定の需要が見込める産業でもある」として、同社は今回の機能移管で「取り扱

点や人員が拡充されたことでよりきめ細かい対応など、

スマートビームは熱延コイルから高周波抵抗溶接によつて連続的に製造されるH形鋼で、熱間圧延H形鋼と比べると板厚が薄く、断面の寸法精度が高いという特徴がある。日本製鉄は溶接軽量H形鋼のトップメーカーとして、工業化住宅をはじめ、仮設住宅、建築鉄骨、システム建築、温室などのさまざまな分野のニーズに対応し、確かな品質で

先達の構造を支えている。

エコリーフはLCA(ライフサイクルアセスメント)手法を用いて資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまでの製品のライフサイクル全体を考えた環境情報を定量的に開示するEPD認証制度のひとつ。顧客はこれにより、使用する製品のライフサイクルでの環境負荷を客観的に評価することができる。

食めつき鋼板KOBEMA Gの建材系への用途拡大や、耐震ケーブルブレースなどの商品群が提供できるので「はないかと考えている」と展望する。

なげたい考えだ。

H形鋼については、6月22日付でJIS認証を取得した中幅の918×303(単位は、以下同様)と広幅の428×407をラインアップに加え、8月契約から販売を開始。サイズエキストラは918×303から6000円に引き上げた。



伊藤社長

建材専門商社として市場でのプレゼンス確立を目指す。

伊藤社長は「神戸製鋼所がこのほど発表した加古川製鉄所の厚板仕上げ圧延機リフレッシュ工事で鉄骨や橋梁分野への安定供給体制を強化する方針を示したこ

鋼の分野では国内初の取得

日本製鉄は「溶接軽量H形鋼」環境ラベルを取得した。

スマートビームは熱延コイルから高周波抵抗溶接によつて連続的に製造されるH形鋼で、熱間圧延H形鋼と比べると板厚が薄く、断面の寸法精度が高いという特徴がある。日本製鉄は溶接軽量H形鋼のトップメーカーとして、工業化住宅をはじめ、仮設住宅、建築鉄骨、システム建築、温室などのさまざまな分野のニーズに対応し、確かな品質で

をベースプラス1万2000円、428×407を同1万5000円とした。

また、同月契約からTHのBシリーズに598×198×8×16と577×299×9×14・5を追加するとともに、389×199×5・5×7・5の販売を中止する。598×198×8×16と577×299×9×14・5のサイズエキストラはベースプラス4000円とし、THのエキストラ価格を4000円から6000円に引き上げた。

鋼の分野では国内初の取得

日本製鉄は「溶接軽量H形鋼」環境ラベルを取得した。

スマートビームは熱延コイルから高周波抵抗溶接によつて連続的に製造されるH形鋼で、熱間圧延H形鋼と比べると板厚が薄く、断面の寸法精度が高いという特徴がある。日本製鉄は溶接軽量H形鋼のトップメーカーとして、工業化住宅をはじめ、仮設住宅、建築鉄骨、システム建築、温室などのさまざまな分野のニーズに対応し、確かな品質で

ネコピース溶接
ロボットライン

武蔵 MUSASHI

小次郎 KOJIRO

松山鋼材株式会社

TEL:0479-57-3021 / mike@matsuyama-kozai.co.jp